

Titibu582

秩父10年1月 58号

## 空からスタンリー山脈を望む

川島 順 予科21-7  
(越谷市) 航空7-1

オーストラリアのシドニーで開催されたアジア弁理士会の国際会議に出席した帰路、小生が搭乗した JAL は、シドニーから成田空港まで9時間無着陸でほぼ直線に飛行した。幸い窓際の席で、しかも、快晴、視界は極めて良好。

最初はオーストラリア大陸の東側内陸部を北上する。四角に区切られた牧場であろうか、緑と赤茶色の区画が交互に延々と続く。やがて海岸線が見えてきた。海岸から内陸に向かう川は、はじめは太く水を貯えていたがやがて急に細くなり、単なる線となって消滅する。

「グレートバリアリーフが見えます」との機内放送で最下を見ると、淡い水色のリングをまとった珊瑚礁の島が点々として続く。中には小さな白く輝く建物らしい物が存在する島さえある。島の周りには、米粒よりも小さな白い点々が見える。漁船かまたはヨットであろうか。タンカーらしい大きな船が真下を横切る。以外に大きく見える。

この高度から首尾よくあの船に突っ込むことができるであろうか。ふと特攻隊になったような気持でタンカーの軌跡を目で追う。

そのうちに比較的大きな島が見えてきた。島全体が緑に覆われている。しかし、あちらこちら薄黒い煙が上がっている。初めは工場の煙突かと思ったが、人家も道路もほ

とんど見えない。

しかも、煙は山の頂上付近から上がっている。もしかしたら山火事ではないか。インドネシアでは山火事が大変だと聞いていたが、ニューギニアでも山火事が発生しているのか。

やがて、大きな島いや陸が見えてきた。丁度トカゲの尻尾そっくりのこの島はニューギニアではないか。ポートモレスビーは見落としたが、眼下の山脈は正しくスタンリー山脈、重畳たる山並みがまるで立体模型の地図そっくりに眼下に展開する。民家は勿論道路も見えない。

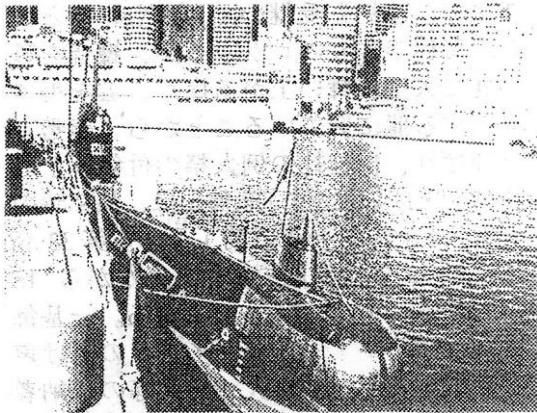
この山並みを見ていると、ほとんど補給が途絶えた状態で、重機を担ぎ、砲を引きずり、山また山を踏破し、ポートモレスビーを眼下に見下ろす峠まで辿り着いたのも束の間、衆寡敵せず。敗走に敗走を重ねて撤退した将兵の辛苦の程が忍ばれ、目頭が熱くなるのを禁じ得なかった。

やがて一筋の川筋が見え得てきた。それを辿ると大きな溪谷となり、民家らしい物が点在してきた。そして、太くなった川はやがて北側の海岸線に辿り着き、そこには比較的大きな港町が眼下に広がる。日本軍の兵站基地のあったブナではなかろうか。

最新のジェット旅客機をもってしてはニューギニア島を南北に縦断するのは僅か数十分を要するに過ぎない。それに引き替え第2次大戦中、制空権を失った日本軍の太平洋地域での作戦では恒に情報の不足に悩まされ、誤算につぐ誤算の果て逐次敗退を余儀なくされた。

せめてその当時、このジェット機のように足が速く航続距離の長い偵察機があれば、戦局をやや有利に展開できたかもしれない

と、あらぬ妄想を抱きながら、果てしなく  
続く大海原を見つめていた。



### **シドニー港内に展示用に係留されたロシアの潜水艦**

(ホックストロット／1971建造、  
2000吨、魚雷発射管船首6門、船尾4  
門)